

発行所 〒102-0083
 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル内
 日本海洋少年団連盟
 電話 03(5213)4778
 (年6回奇数月の1日)
 購読料 1部10円(送料実費)
 会員会費には購読料が含まれる
 振替東京 5-13846番

海洋少年団通信

Japan Sea Cadet Federation

ちかい

1. 海のような広い心で団結し、すべての人を友とします。
2. からだをきたえ、心を養い、立派な海の子になります。

平成28年度 第9回「美ら海体験教室」開催

(公社)日本海洋少年団連盟、沖縄地区連盟及び宜野湾はごろも団主催、(一財)近藤記念海事財団共催の「第9回美ら海体験教室」が7月31日と8月6日、沖縄で行われた。

第一日目は、沖縄地区の海洋少年団員及び沖縄県在住の小学1年生、中学3年生及び保護者の約200名が参加して、宜野湾マリナーズでマリンスポーツ体験が行われ、ヨット、



サンゴの移植体験



海洋環境教室



マリンスポーツ体験



海浜清掃活動



環境教室では、「うみまる」君も登場し、子供たちに大人気！

両日を通じて、参加した子供たちと保護者に海について理解を深め、海洋環境の保全の大切さを実感もろう絶好の機会となった。

業務多忙のなか、ご協力いただいた第十一管区海上保安本部環境防災課の皆様をはじめ関係者の皆様に感謝いたします。

海洋少年団強化・活性化プロジェクトチーム総会を順次開催

5月24日小樽市内で開催した北海道地区プロジェクトチーム(PJT)第1回総会の開催(前号で既報)の後、次のとおり開催した。

6月6日 関東・東京地区を横浜市内で開催。メンバーは関東地区連盟、東京地区連盟、日本海洋少年団連盟、沖縄総合事務局、第十一管区海上保安本部、沖縄旅客船協会、沖縄地方内航海運組合、琉球海運、沖縄水産高校が参加した。

8月1日 沖縄地区PTを浦添市内で開催。メンバーは沖縄地区連盟、日本海洋少年団連盟、沖縄総合事務局、第十一管区海上保安本部、沖縄旅客船協会、沖縄地方内航海運組合、琉球海運、沖縄水産高校が参加した。

国際交流(派遣事業)実施

前号でお知らせした国際交流が7月から8月にかけて順調に実施され、最も短い香港で足掛け9日間、韓国で15日間、最も長いカナダで19日間の日程を無事終了した。

詳細は次号にて報告されるが、概略を以下に説明する。

香港では、食事の作法等で異文化を身近に体験。韓国はナショナル・レガッタ等に参加したが、テコンドーのプログラムも充実して

参加した。

7月27日 中国地区PTを広島市内で開催。メンバーは中国地区連盟、日本海洋少年団連盟、中国運輸局、第六管区海上保安本部、中国旅客船協会、中国海事広報協会、中国船舶工業会、中国小型船舶工業会、常石造船、広島商船高等専門学校、他、オブザーバーとして広島県教育委員会が

今後これらの議論を踏まえ、必要に応じ推進委員会などを設置するなどして強化・活性化活動を推進することとしている。

海事関係功労者表彰受賞

中日団、宜野湾はごろも団、千葉市連盟(千葉新宿団・千葉北部団)

平成28年「海の日」環境美化に貢献した。宜野湾はごろも団、千葉市連盟(千葉新宿団・千葉北部団)の3団体が国土交通大臣より海事関係功労者表彰を受賞した。

これは多年にわたり海の環境美化に貢献した団体に贈られるもので、「海をきれいにするため一般協力者」として21団体が表彰を受けたが、そのうち3団体を海洋少年団が占めた。

【奉仕活動概要】
中日団:愛知県知多郡の小野浦海岸、同県名古屋市の名古屋港ガレージ埠頭等において多年にわたり清掃活動を行い、海岸及び港内の



関東地区大会にて千葉市連盟

総務部長着任ご挨拶 中島 幹夫



7月1日に着任いたしました中島幹夫と申します。これまで海運会社二社で41年3ヵ月を過ごしてまいりました。その間、海洋少年団にいたという方々と席をおなじくしたこともありました。

今、この任を引き受けることは身の引き締まる思いです。少子化、ヴァーチャル・リアリティ、そして塾、ゴルフ・野球等のスポーツのお稽古事。これらの波に対抗して、将来の海洋に係わる人材の芽を育て、興味を持ち続けてもらう事は、簡単なことでは在りません。

全ての日本の企業や法人は、存続し続けるようとする限り後継者を必要としています。そのような海洋関係の方々のお役に立てるよう、微力を尽くしてまいります。

今月の主な記事

- 2面〜3面 地区大会特集、4コママンガ
- 4面 我ら海の子展、みどりの広場、日本連盟表彰他

2016年地区大会特集

第55回北海道地区大会 海水浴やジンギスカンも



北海道には珍しい真夏日が続いた8月6日から3日間の日程で、

石狩市弁天会館を主会場に、釧路団、根室団、札幌団35名にて55回目を迎えた北海道地区大会を開催した。
初日は、大会実行委員会及び競技委員会に引き続き、矢川北海道地区連盟会長の挨拶を皮切りに開会式を整然と行った。
初日の競技は結索を実施。個人競技は5種類の課題、団体は6種類の課題に取組んだ。満点合格者が続出し、

日頃の訓練の成果が十分に発揮される結果となった。
大会2日目は朝6時30分から手旗受信競技を開始。ラッコ級による原画20種の手旗3級技能賞の受信を初めに、続いて初等級から高等級まで一同に対して50文字づつの無意味、有意味の受信競技と検定を行った。満点合格者は3名に留まったが、皆、真剣な眼差しで取り組んでいた。
朝食後、会場を移して水泳競技を実施した。初等級・中等級・高等級の順に自由形タイムレースを行い、熱戦



が繰り広げられた。さらに会場を札幌団訓練所に移しカヌー競技を実施。折返し100mを漕ぐ個人タイムレースとし、個人タイムの各団上位3名の速さにより、団体の得点を競う団体レースを行った。風に流されないよう、皆力いっぱい漕いでいたのが印象的であった。
最終日、宿舍の清掃を行い、閉会式では競技結果の発表と表彰式を行った。
3日間の食事を手作りしてくれた札幌団長を始め、指導員、父母の皆さんに感謝をし、来年の再会を誓い、大会の幕を閉じた。
(北海道地区連盟事務局員・根室団指導員 神田文洋)

第22回関東地区大会 元南極観測船SHIRASEでの大会

7月30日(土)から31日(日)まで、千葉県船橋市高瀬町京葉食品コンビナート岸壁に係留されている元南極観測船SHIRASE 5002(一般財団法人WNI気象文化創造センター所有)にて第22回関東地区大会(船橋団主管)が開催され、関東地区連盟9団約150名が参加した。

2日目にはカッター競技を実施した。カッター競技もより多くの団員や指導者が参加できるように初等級の部、中高等級の部、指導者の部に分け全6チーム



が参加し、熱の入ったレースとなった。イベントにおいては、WNI気象文化創造センターのご協力を頂き、「チャレンジSHIRASE交流会」を実施し、SHIRASE 5002の活動や歴史、南極観測等について学習した。
また、千葉海上保安

部のご協力を頂き、巡視艇「たかたき」の見学を実施した。夜には浦安の花火を艦上から見物した。
今大会には、自衛隊千葉地方協力本部、陸上自衛隊第1空挺団、陸上自衛隊松戸駐屯地、海上自衛隊下総航空基地のご協力を頂き、入浴機材(野外入浴セット)による入浴や戦闘糧食の朝食等貴重な体験をすることができた。表彰式では団体競技の副賞(袋いっぱいのお菓子の詰め合わせセット)を関東地区連盟福田会長から手渡され、笑顔いっぱい表彰式となった。閉会后、巡視艇「たかたき」の放水で全日程の幕を閉じた。
(船橋団 大部正宏)

第18回東京地区大会 ミニオリピックや山城見学も

7月29日から30日にかけて「高尾の森わくわくピレージ」において深沢団、大田区団、目白台団、千代田区団、杉並団が参加し東京地区大会を開催した。

7月29日の午後各団が集合しその後、宿舎前の広場で開会式を行った。
東京地区連盟藤田光

区大会を主催した。二日目は教育級、初等級以上の手旗・ロープ競技個人及び手旗・ロープ競技団体競技を行い、みな日頃の成果を発揮しようと臨んだ。また、手旗団体では準指導員がオープン参加し団員と競いあった。競技終了後、オリピックイヤーにちなんでひしゃく等を使いうまい棒をすくうスプリンリレーやビーチボールトンネルなどのミニオリピックを行った。競技終了後なので団員もとてりラックスして楽しんで行っていた。

夕食後、高尾山から降りて来た大天狗に扮した指導者が火の神となり井桁に組んだ薪に点火しキャンプファイヤヤーが始まり各班のスタンツやレクを行い、盛りだくさんの一日が終了。
三日目は戦国末期に築かれた八王子城址跡に行きボランティアガイドの方々による築城や、城域の構造等を丁寧に説明して頂き普段はあまり行かない山城を見学し参加者は説明を聞きいつていた。

閉会式は藤田東京地区連盟会長の挨拶後、競技担当の御厨指導員から競技の総評、賞状の授与、ミニオリピックの結果発表・表彰を行い地区大会が終了した。
(東京地区連盟 事務局員 石倉芳明)

第20回中部地区大会 敦賀港カッターレースと同時開催

7月30日、31日にかけ、福井県敦賀市で第20回日本海洋少年団中部地区連盟大会(敦賀団主管)を8団130名の参加を得て開催した。

この夏一番の暑さとなった初日は、きらめきみなと館での開会式の後、手旗とロープワークの競技を行った。新入団員でも参加できるよう、手旗競技は原画を受信し、ロープワーク競技も5種類の結索法を試すB競技を実施した。A競技・B競技とも、満点合格者には満点章を授与したほか、8割以上得点できた団員には、奨励賞を授与

した。なお、B競技の満点章は、連盟で規定されていないため、平成30年の福井団体のキャラクター「はぴりゅう」のピンバッジを授与した。送受信競技は6チームが参加し、5人で15分以内と言うローカルルールで行ったが、満点を取れたのは敦賀団

Aのみだった。敦賀港は、杉原千畝領事館がリトアニアで発行した「命のビザ」でユダヤ人を受け入れた日本で唯一の港で、「人道の港」と呼ばれている。今回の大会でも、おもてなしを前面に打ち出すため、宿舎である自然の家に敦賀名物の屋台ラーメンを呼び、多くの参加者が夕食後にもかかわらずラーメンを食べた。ただ、屋台が来たときに鳥合の衆よろしく団員が殺到したため、その場にいた指導員が、縦隊の号令をかけるように、団員や指導者はすぐさま列を形成し、大人しく待っていたのは海洋の訓練の成せる技だと皆感心した。

2日目のカッター競技は、第21回敦賀港カッターレースと同時開催



手旗競技



築城の説明

信会長の挨拶で始まり班編成等を行い各班の部屋に移動し次の日に行う競技練習及びキャンプファイヤヤースタンツ練習を行い一日目は終了。
二日目は教育級、初等級以上の手旗・ロープ競技個人及び手旗・ロープ競技団体競技を行い、みな日頃の成果を発揮しようと臨んだ。また、手旗団体では準指導員がオープン参加し団員と競いあった。競技終了後、オリピックイヤーにちなんでひしゃく等を使いうまい棒をすくうスプリンリレーやビーチボールトンネルなどのミニオリピックを行った。競技終了後なので団員もとてりラックスして楽しんで行っていた。

夕食後、高尾山から降りて来た大天狗に扮した指導者が火の神となり井桁に組んだ薪に点火しキャンプファイヤヤーが始まり各班のスタンツやレクを行い、盛りだくさんの一日が終了。
三日目は戦国末期に築かれた八王子城址跡に行きボランティアガイドの方々による築城や、城域の構造等を丁寧に説明して頂き普段はあまり行かない山城を見学し参加者は説明を聞きいつていた。



開会式宣言

この夏一番の暑さとなった初日は、きらめきみなと館での開会式の後、手旗とロープワークの競技を行った。新入団員でも参加できるよう、手旗競技は原画を受信し、ロープワーク競技も5種類の結索法を試すB競技を実施した。A競技・B競技とも、満点合格者には満点章を授与したほか、8割以上得点できた団員には、奨励賞を授与



ロープワーク競技

した。なお、B競技の満点章は、連盟で規定されていないため、平成30年の福井団体のキャラクター「はぴりゅう」のピンバッジを授与した。送受信競技は6チームが参加し、5人で15分以内と言うローカルルールで行ったが、満点を取れたのは敦賀団



はぴりゅうと交流

第21回近畿地区大会

「キャンプファイヤー」や塩作り体験も



塩作り体験

舞鶴団、神戸団、赤穂団から団員役員総勢38名が集まった。5日午後12時30分から兵庫県立赤穂海浜公園の北口正面エントランスにおいて、赤穂市教育委員会教育次長を来賓に迎えて開会式を行った後、全団員による合同基本訓練を行った。

また同科学館では、世界の塩、動物の化石などの見学で見聞を広めた。夕方7時45分からは花火見学をして2日目終了。最後の7日は、宿泊所の野外活動センターの屋外清掃や宿泊施設の後片付けを行い、近くの「かんばんの宿赤穂」の会議室で表彰式、閉会式を行い、最後にさよなら昼食会(バイキング料理)で大会を締めくくった。



手旗送受信競技

8月5日(金)から7日(日)の3日間、近畿地区海洋少年団連盟主催で「第21回日本海洋少年団近畿地区大会 in 赤穂」を開催した。

今回の大会には、新生神戸海洋少年団が加わり、大阪みなと団、

その後、会場を赤穂市立野外活動センターに移し、友情の集い、キャンプファイヤー、ゲームなどで、相互の緊張をほぐして1日目を終了した。宿泊は同野外活動センターの宿泊棟を利用していただいた。6日の朝は、「朝の

第12回中国地区大会

「少年団OBとの交流」

第12回中国地区大会は、8月19日から三日間、広島県江田島市の「国立江田島青少年交流の家」で、来賓に寺田稔衆議院議員・宇田伸良衆議院議員・平田修典衆議院議員・赤津洋一海上保安大学校長をお迎えし、三原海洋少年団の主管のもと146名の参加を得て開催された。

今回の大会は、手旗・ロープワークの二種目で日頃の訓練の成果を競うだけでなく、団員同士の友情を深めることが大きな目的でもあった。その中で、「友情調を崩した者が出たが、関川秀樹一等海佐(福山団OB)の取り計らいにより大事にいたらずなくすんだ。最終日は、海上保安大学の練習船「こじま」の乗船見学、「大和ミュージアム」の見学を楽しんだ。競技成績は、



手旗送受信競技

【手旗送受信競技】優勝 宇部団

【手旗競技総合】一位宇部団・二位岩国団・三位浜田団

【ロープワーク競技団体】一位宇部団・二位岩国団・三位三原団

【競技総合】一位宇部団・二位岩国団・三位三原団という結果だった。

猛暑の中で大会だったが、主管団である三原団・三原団育成会の皆様には大変お世話になり、参加した団員達にとって、夏休みの楽しい思い出になったと思う。

(中国地区連盟 事務局長 池田則光)



第18回九州北部地区大会

「宜野湾はごろも団との交流」

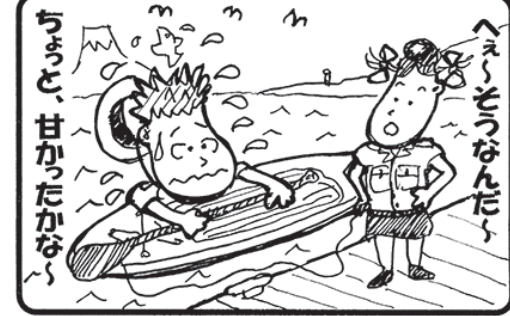
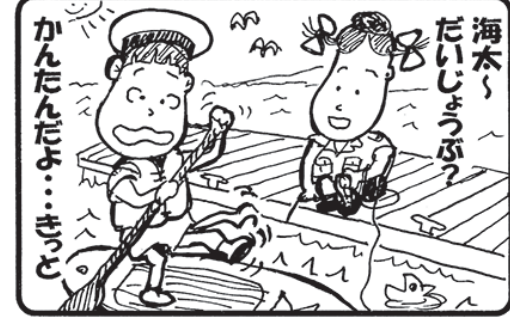
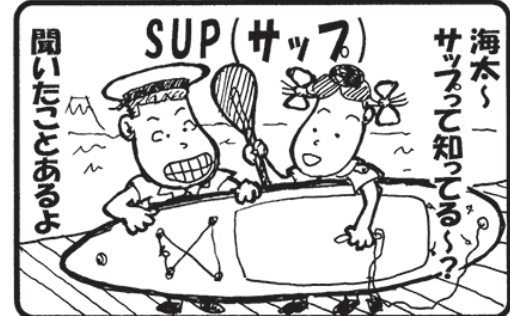
7月30日〜8月1日まで沖縄県宜野湾市にて開催され、指導者19名、団員23名、保護者2名が参加した。

福岡空港から那覇空港に降り立ち、早速、貸切バスで昼食を兼ね「ひめゆりの塔」を見学、その歴史を学び記念撮影を行った。その後、平和祈念資料館で平和の大切さを勉強した。

最後に沖縄県連盟とはごろも団の皆様にご多大な協力を賜り九州北部地区大会が無事に終了したことを心より感謝いたします。(実行委員長・佐世保団 団長 松本文男)

うみたひろみ VOL.135

海太と洋美 作・ちばへーた



東北地区管内では、東北地区大会に準じる秋田県連盟交流大会を秋田県、にかほ市・潟上市等の後援を得て、7月23日に日本海側の天王団、酒田団、金浦団の団員・指導者等56名が、にかほ市「ねむの丘」に集い行った。開会式では、同県連会長挨拶、東北地区連

盟会長の祝辞に始まり、団員の宣誓後、同地で開催中の「にかほ市海の幸まつり」へ協賛参加した。ステージイベントは、にかほ市長や地元市民・観光客など約500名が見守る中、検定も兼ねて団員一同が基本動作、結索、手旗の演舞で盛り上げた。特別披露として地元

マスケット「秋田ベンダー」が渡した内容を団員が手旗送信し、受信内容を参列者が確認して会場に向け発表するゲームを披露、その迅速、正確さに驚き客席からは歓声が上がった。炎天下のデモンストレーションは海洋少年団の活動が改めて認識されたひと時であった。

イベント終了後、友情の集い、指導員連絡会議を行うなど友好の輪を広げ、再会を期し散会した。

(東北地区連盟 事務局長 中野正護)



ロープワーク競技

